

第 21 回日本組織適合性学会大会のご案内

第 21 回日本組織適合性学会大会

大会長 間 陽子

(独立行政法人理化学研究所 分子ウイルス学特別研究ユニット)

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

第 21 回日本組織適合性学会大会を下記要領にて開催いたします。本大会は、「異分野研究が拓く MHC 研究の新しい展開」をテーマとして、MHC 研究の基礎から臨床まで多様な視点から最新の成果を取り上げたいと考えています。会場は東京の明治大学（駿河台キャンパス）ですので、利便性に優れた会場と思います。多数の会員のご参加をお待ちいたしております。

会 期：2012 年 9 月 15 日（土）～ 17 日（月・敬老の日）

会 場：明治大学（駿河台キャンパス）アカデミーコモン・リバティータワー

〒 101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

http://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html

[大会ホームページ]

<http://www.hla2012.com/>

[大会内容（予定）]

◆ 9 月 15 日（土）

1. シンポジウム 1 「HLA とウイルス —新しい臨床展開—
2. ランチョンセミナー
3. 一般口演および学術賞・学術奨励賞候補口頭発表
4. ポスターセッション

◆ 9 月 16 日（日）

1. 一般口演
2. ランチョンセミナー
3. シンポジウム 2 「新しいパラダイムが拓く MHC 研究の新展開」
4. ポスターセッション
5. 懇親会

◆ 9 月 17 日（月・敬老の日）

1. 教育講演（認定制度講習会）
2. QC ワークショップ集会
3. 認定制度技術者試験

[海外招待講演者 (予定)]

- Daniel E Geraghty (Fred Hutchinson Cancer Research Center)
- Derek Middleton (University of Liverpool)

[事前参加登録]

事前参加登録は大会ホームページ (<http://www.hla2012.com/>) にて申込み可能です。

事前参加登録をされる方は、2012年8月8日(水)までに事前参加登録をお願いいたします。

[参加費]

●事前参加費 (2012年8月8日(水)まで)		●当日参加費	
◆理事・評議委員・非会員	¥10,000	◆理事・評議委員・非会員	¥12,000
◆会員	¥8,000	◆会員	¥10,000
◆学生	¥5,000	◆学生	¥6,000

[一般演題募集要項]

1. 発表形式

口頭およびポスター、またはポスターのみによる発表です。(口頭発表を行う方にはポスターの掲示もお願い致します。)

発表形式(口頭およびポスター発表、またはポスターのみの発表)の決定に関しましては、プログラム委員会に一任下さい。

2. 応募資格

筆頭演者は本学会員である事が必要です。

非学会員の方は、日本組織適合性学会ホームページ (<http://square.umin.ac.jp/JSHI/index.html>) から入会手続きを行って下さい。

3. 申込方法

1) 演題のお申込みの前に事前参加登録をお願いいたします。

- 事前参加登録を完了されますと、事前参加登録の確認メールが届きます。その確認メールに事前参加受理番号が記載されます。この番号が演題申込みの際に必要となります。

2) 演題の申込は、E-Mailのみでお受けいたします。

- E-Mailの件名は「21JSHI 一般演題」として下さい。
- ①演題申込書、②要旨の2つのファイルを添付して、21jshi@aeplan.co.jp宛にお送り下さい。

3) 演題申込書ファイルの作成

- 第21回日本組織適合性学会大会ホームページ (<http://www.hla2012.com/>) から「演題申込書」をダウンロードし、必須項目(事前参加受理番号、演題カテゴリー番号、演題名、演者、所属、代表者の連絡先住所、電話番号、Fax、E-mail)をご記載下さい。
- ファイル名は「応募者演題申込書.xls」として下さい。(例 間陽子演題申込書.xls)
- 演題カテゴリーは、下記のカテゴリーよりお選び下さい。(それぞれ基礎および臨床を含みます。)

演題カテゴリー

- | | |
|------------|------------|
| 1. 臓器移植 | 6. 免疫 |
| 2. 造血幹細胞移植 | 7. 技術・方法 |
| 3. 細胞・組織移植 | 8. 疫学・統計解析 |
| 4. 再生医療 | 9. 動物 MHC |
| 5. 疾患 | 10. その他 |

4) 要旨形式

- 要旨は、Microsoft Office の Word 形式の 2003 以上で保存し、ファイル名は、「応募者抄録 .doc」としてください。(例 間陽子抄録 .doc)
- 下記の記載例をご参照の上、「演題名、演者、所属、本文」の順に記載してください。
 - 演者は、発表者に○印を付けてください。また、各演者名の後に上付き文字で所属番号を入れてください。
 - 所属の正式名称が長い場合は、省略所属名で記載してください。
 - 本文は、MS 明朝 11 ポイントで作成してください。800 文字以内を厳守し、【目的】・【方法】・【結果・考察】などに分類してください。英数字は半角文字を使用し、2 文字で 1 字としてカウントしてください。

※要旨記載例

大会ホームページ (<http://www.hla2012.com/>) の「演題申込」のページの「要旨記載例」を参考に作成をお願いします。

(ご注意)

申込者ご本人が入力したデータをそのまま抄録集に使用しますので、タイプミス等があっても、そのまま印刷されます。ご注意下さい。

また、要旨の修正は、締切日以降に受付することも出来ませんので、ご注意下さい。

4. 演題申込締切

2012 年 5 月 31 日 (木) 必着

5. 採択通知

演題をお申し込んだ後、確認のメールをお送りいただきます。もし、演題お申込確認メールが届かない場合は、運営事務局 (21jshi@aeplan.co.jp) まで、御連絡下さい。採択に関しましては、2012 年 8 月上旬に演題発表形式 (口演 / ポスター) および発表日時を記載しました採択通知を E-Mail にて連絡代表者へ通知いたします。

[懇親会]

日 時 : 2012 年 9 月 16 日 (日) 18:15 ~ (予定)

会 場 : リバティータワー (岸本辰雄ホール・宮城浩蔵ホール)

参加費 : 一般 ¥3,000 学生 ¥2,000

[宿泊・交通のご案内]

本大会の宿泊・交通に関しましては、各自でご手配をお願いします。

[2012 年度学術賞・学術奨励賞]

第 21 回日本組織適合性学会大会の一般演題に応募された中から、特に優秀と認められた演題の筆頭演者に学術賞・学術奨励賞が授与されます。応募希望者は別途の手続きが必要です。詳細は日本組織適合性学会ホームページおよび本号に掲載されている「2012 年度学術賞ならびに学術奨励賞の募集について」をご参照ください。

[2012 年度大会長賞]

第 21 回日本組織適合性学会大会では、上記の学術賞・学術奨励賞とは別に、一般演題に応募された中から、ユニークで優れた発表をされた団体または個人に対して授与される大会長賞を設けます。大会長賞の選考結果については、懇親会会場にて発表します。

[大会事務局]

〒 351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1
独立行政法人理化学研究所 分子ウイルス学特別研究ユニット
第 21 回日本組織適合性学会大会 事務局

[運営事務局]

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-2-8
昭文館ビル 3F (株式会社エー・イー企画内)
第 21 回日本組織適合性学会大会運営事務局
運営事務局 担当：衛藤 匡
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479
E-mail: 21jshi@aeplan.co.jp

2012 年度学術賞ならびに学術奨励賞の募集について

会員の皆様

研究助成を目的とした日本組織適合性学術賞並びに学術奨励賞を以下の要領で募集します。年齢制限の無い学術賞も授与いたしますのでふるってご応募ください。

1. 助成内容

2012 年度学術集会大会（第 21 回大会）に応募された一般演題の中から、特に優秀と認められた演題の筆頭演者（応募者）に学術賞（年齢制限無し）と学術奨励賞（2012 年 9 月 17 日時点で満 45 才未満）を授与します。授与件数は学術賞 1～2 件、学術奨励賞 1～2 件（両賞併せて原則として 3 件までとする）で、助成金授与を予定しております。

2. 募集分野

- (1) 基礎研究系（主に基礎医学系の研究。理学，生物学的な研究を含む）
- (2) 臨床研究系（臨床関連研究。基礎医学的な疾患研究などを含む）
- (3) 技術応用系（実務関連研究。実務を通じた発見，技術応用などを含む）

3. 応募資格

助成金応募にあたっては、以下の条件のすべてを満たしていることが必要です。

- 1) 応募者は本学会の正会員であり 2012 年度の会費を納入済みであること、または今後正会員となる予定であり学会までに 2012 年度の会費を納入予定であること（今後正会員となられた方で、学会にて受賞された方は、原則として次年度以降も正会員を継続することを条件とする）
- 2) 応募者は応募しようとする演題の筆頭演者であること
- 3) 応募しようとする演題の内容において、応募者が中心的な役割を果たしたこと
- 4) 応募しようとする演題の内容が、本学会にふさわしく、かつ未発表であること
- 5) 学術奨励賞の応募者は 2012 年 9 月 17 日時点で満 45 才未満であること。ただし、技術応用系については年齢制限はありません。

4. 応募方法

大会の演題抄録募集とは別途の手続きで行いますので、以下の書類を次のアドレス宛にメール添付で送って下さい。（HLA 学会事務局，E-mail: jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp）

必要書類

1) 抄録

一般演題に応募した抄録

（Word 形式で保存し、ファイル名を応募者名抄録 .doc {例；猪子英俊抄録 .doc} とする。ただし、Word が使えない場合はテキスト形式で保存しファイル名を応募者名抄録 .txt とする）

2) 応募ファイル

1 頁目に、演題名、演者（全員）、所属（全員）、応募助成対象（学術賞か学術奨励賞のいずれかひとつ）、応募分野（基礎研究系、臨床研究系、技術応用系のいずれかひとつ）、および応募者（筆頭演者）の連絡先住所、電話番号、FAX、e-mail アドレス、生年月日、年令を記入する。

2 頁目以降に、応募した (1) 研究の背景, (2) 研究の意義, (3) 日本組織適合性学会との関わり (これまでと今後の方針・希望など) を、各項目ごとに 300–400 字程度でまとめる。

(Word 形式で保存し、ファイル名を応募者名申込 .doc {例; 猪子英俊申込 .doc} とする。ただし、Word が使えない場合はテキスト形式で保存しファイル名を応募者名申込 .txt とする)

5. 応募締め切り

2012 年 7 月 6 日 (金) (必着)

6. 選考および結果通知について

21 回大会期間中に実施される「学術賞ならびに学術奨励賞応募演題セッション」において発表を行っていただきます。数名の評価委員が発表内容の評価を行います。その評価結果を参考にして学術賞・学術奨励賞選考委員会にて選考を行います。第 21 回大会期間中に選考結果を公表し、表彰式を実施します。

7. 助成金の使途

使途について特に制限はありませんが、学術賞・学術奨励賞であることの趣旨をご理解の上、適切に使用ください。なお、使途とその内訳を後述の報告書に記載するものとします。

8. 受賞者にかかる義務について

受賞者は、助成が行われた研究課題についての報告書(様式は別途通知します)を学会宛に提出して頂きます。

9. 助成が行われた研究課題の成果発表について

研究課題の研究成果については、原著論文もしくは総説等の形式にて、学会誌 MHC への積極的な発表をお願いします。

10. 問い合わせ先

本件に関する問い合わせは学会事務局 (Tel: 03-5803-4906, Fax: 03-5803-4907, E-mail: jshijimu.tis@mri.tmd.ac.jp) または、学術賞・学術奨励賞担当理事猪子英俊 (TEL: 0463-93-1121 内線 2312, FAX: 0463-94-8884, E-mail: hinoko@is.icc.u-tokai.ac.jp) をお願いします。

組織適合性検査技術者認定制度
平成 24 年度・認定 HLA 検査技術者講習会のお知らせ

組織適合性検査技術者認定制度委員会
委員長 田中 秀則
組織適合性検査技術者認定制度委員会教育部会
部会長 西村 泰治

日時：平成 24 年 9 月 17 日（月曜日・祭日）9:00～11:00

会場：第 21 回・日本組織適合性学会大会会場

明治大学駿河台キャンパス リバティホール

（東京都千代田区神田駿河台 1-1）

テキスト：テキストは講習会の約 1 ヶ月前に、学会ホームページ上に掲載しますので各自、御参照ください。
従来のような会場でのテキストの販売は、いたしません。

受講証明書：認定制度に関わる受講証明の受領を希望される方には、会場入口の受付にて、1 人につき 1 枚を発行いたします。

内容：各講習とも質疑応答を含めて、35 分を予定しています。講演の抄録につきましては、MHC Vol. 19, No. 2 大会案内号（2012 年 8 月発刊予定）に掲載いたします。

(1) 熱帯感染症と HLA

平山 謙二（長崎大学熱帯医学研究所・免疫遺伝学分野 教授）

(2) QC ワークショップの結果から見た HLA 抗体検査の現状

高 陽淑（日本赤十字社・近畿ブロック血液センター 検査三課 係長）

(3) 肝臓移植と HLA

江川 裕人（東京女子医科大学・消化器外科 教授）

この講習会は、今後 HLA 検査技術者認定を取得、あるいは更新しようとする方々を対象に実施されますが、それ以外の大会参加者であっても自由に参加することができます。

従来のように、事前に受講希望届けを提出し、事前登録していただく必要はございません。

平成 23 年度・認定 HLA 検査技術者講習会アンケート集計結果

開催日時：平成 23 年 8 月 28 日（日曜日）10:00～12:00

会 場：第 20 回・日本組織適合性学会大会会場

三島市民文化会館（ゆうゆうホール：静岡県三島市）

・回答者総数：95 名

1) 旅費・滞在費の財源について 回答者 94 名

①	私費	24 名 (26%)
②	職場からの支援	66 名 (70%)
③	その他	4 名 (4%)

③その他の内訳：研究費から 2 名，①と②を半額ずつ 2 名

2) 職場・職務について

職場 回答者 95 名

①	病院	46 名 (48%)
②	血液センター	17 名 (18%)
③	検査センター	5 名 (5%)
④	大学（国公立，私立）	13 名 (14%)
⑤	民間企業	6 名 (6%)
⑥	その他	8 名 (8%)

職務 回答者 90 名

①	臨床医	4 名 (4%)
②	臨床検査業務	60 名 (67%)
③	検査受託業務	13 名 (14%)
④	製造業関連業務	2 名 (2%)
⑤	製品開発業務	1 名 (1%)
⑥	教育業務	4 名 (4%)
⑦	研究業務	5 名 (6%)
⑧	その他	1 名 (1%)

3) 参加者の認定制度への関わりについて

認定資格の取得状況および取得への希望 回答者 91 名

①資格取得済み 50 名 (55%) ②資格取得希望 30 名 (33%) ③資格取得希望しない 11 名 (12%)

取得済みまたは取得を希望する資格 回答者 55 名

①認定技術者 52 名 (95%) ②認定指導者 3 名 (5%)

4) 学会ホームページに掲載された，講習会テキストの事前確認の有無 回答者 95 名

あり 89 名 (94%) なし 6 名 (6%)

5) 講習科目の種類は適切であったか？ (数値は5点満点の平均点)

平均点 4.7 回答者 71 名

dz	評価の基準：5：すべての科目において適切であった。	dz
—	4：一部の科目に問題があったが、ほぼ適切であった。	—
—	3：約半数の科目は適切であった。	—
—	2：多くの科目について不適切であった。	—
—	1：すべての科目について不適切であった。	—
tf		ts

6) 講習内容のレベルならびに講習テキストは適切であったか？ (数値は5点満点の平均点)

	講演評価	テキスト評価	
平均点	4.1	4.1	回答者 90 名

dz	評価の基準：5：すべて理解できた。	dz
—	4：一部は難解であったがほぼ理解できた。	—
—	3：約半分は理解できた。	—
—	2：多くの内容について難解であった。	—
—	1：すべての内容が難解であった。	—
tf		ts

7) 講習時間は量的に適切であったか？ (数値は5点満点の平均点)

時間評価平均点	コメント 回答者 89 名
4.2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 声が聞き取れなかった ・ スライドのプリントも欲しかった ・ 映像が興味深い ・ ポインター動かし過ぎ ・ 3 講師ともスライドが面白かったのでホームページで閲覧希望 ・ 現状がよく分かった

dz	評価の基準：5：適切であった。	dz
—	4：ほぼ適切であった。	—
—	3：もっと長時間の講習を受けたかった。	—
—	2：講習時間はもう少し短くてもよかった。	—
—	1：その他	—
tf		ts

8) 講習会の開催通知は適切であったか？ (数値は5点満点の平均点)

平均点 4.9 回答者 90 名

dz	評価の基準：5：適切であった。	dz
—	4：あやうく見落とすところであった。	—
—	3：他の人から情報を得るまで気が付かなかった。	—
—	2：その他	—
tf		ts

講習会開催情報の入手経路	回答者数 (27 名中)
学会誌	7 名 (7%)
ホームページ	15 名 (16%)
知人より	1 名 (1%)
メール	4 名 (4%)

9) その他の意見

①講習の内容について

- ・講習科目として、臨床の現状（造血、臓器移植等）、最新の一年間の内容が総括・理解できる科目を希望。
- ・臨床を多くしてもらいたい。
- ・基礎はもっと内容を絞ってもらいたい。

②テキストのホームページ掲載について

- ・ホームページ掲載で問題ないと思う。
- ・テキストはホームページからの印刷のみで良いと思う。誰がダウンロードしたかを確認すべき。
- ・テキストをホームページに掲載する際は、修正版が出ないようにしていただきたい（ギリギリでも構わないので）
- ・テキストを先に見られてよかった。
- ・ホームページが分かりにくい。
- ・講習会の大会ホームページのリンクが、無効になっており問題だと思う。

③会場及び開催時期について

- ・マイクの音質が悪く、音がこもって聞き取りにくかった。
- ・会場の冷房が強すぎる。
- ・会場スクリーンが小さく見えなかった。スライドとテキストが一致しているわけではないことが分かった。
- ・例年通り、9月開催を希望する。
- ・8月は皆が夏休みを取るので学会参加が難しい。8月末は一般人が帰省から戻ったりするので、旅券も取りにくいし高価なので、9月末～10月の開催を希望する。地方よりも、やはり東京・大阪が便利。
- ・開催日を土・日・月など休日にしていただきたい。
- ・土曜日の夕方、日曜日 11 時頃を希望。
- ・次年の開催予定を県名だけでもいいので公表してほしい。

④その他（認定制度更新について）

- ・新規認定取得希望だが、認定単位など非常に難解で系統立ってない印象がある。
- ・QCWSに参加しているが、証明書の発行に追加で費用を徴収されるのには疑問を感じる。
- ・勝手ですが、認定の更新時に個人宛にハガキをいただければ幸いです。忘れる可能性があるため。

日本組織適合性学会 技術者認定制度委員会 QCWS 部会名簿 (2012 年)

担 当	氏 名	所 属
部 会 長 :	田中秀則	日本赤十字社 中央血液研究所 中央骨髄データセンター
副 部 会 長 :	中島文明	日本赤十字社 中央血液研究所 研究開発部
副 部 会 長 :	成瀬妙子	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子病態分野
・企画解析部門		
臓器移植分野 :	石塚 敏	東京女子医科大学 腎センター移植免疫研究室 (新任)
造血幹移植分野 :	森島泰雄	愛知県がんセンター中央病院・血液細胞療法部
輸 血 分 野 :	高 陽淑	大阪府赤十字血液センター
・試料管理部門		
DNA-QC 担 当 :	安波道郎	長崎大学 熱帯医学研究所
抗 体 -QC 担 当 :	中島文明	日本赤十字社 中央血液研究所 研究開発部
・部 会 員 :		
	太田正穂	信州大学 医学部
	吉川枝里	東海大学 医学部基礎医学系分子生命科学 (新任)
	木村彰方	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 分子病態分野
	小林孝彰	名古屋大学 免疫機能制御学寄附講座 (新任)
	佐田正晴	国立循環器病センター 再生医療部
	宮崎 孔	北海道血液センター 検査三課
	橋口裕樹	福岡赤十字病院
	山本 賢	国立循環器病センター 臨床検査部

事 務 局 : 日本赤十字社 血液事業本部内